

教員養成のための情報リテラシー教育の実践

Practice of Information Literacy Education for Teacher Training

深谷 和義

Kazuyoshi FUKAYA

椋山女学園大学教育学部

School of Education, Sugiyama Jogakuen University

Email: kfukaya@sugiyama-u.ac.jp

あらまし：大学の教員養成学部生に対して行う情報リテラシーの教育内容を検討する。情報リテラシーは全学部生を対象に教養科目として教育することが多い。一方、教員免許取得のために「情報機器」の履修が義務づけられている。したがって、教員希望の学生にとっては、教養科目としてだけでなく、教員養成のための情報リテラシーを学習することが望まれる。そこで、教員養成学部生に必要な情報リテラシー教育内容を、実践を踏まえて考察する。

キーワード：教員養成、情報リテラシー、教養科目、大学

1. はじめに

情報リテラシー教育は、教養科目の一つとして学部を問わずに行われることが多い。これは、主に大学初年次に行われている。

一方、教員免許取得のためには、「情報機器の操作」2単位を履修することが義務づけられている。

教員養成学部生対象の情報リテラシー教育であれば、教育に関わる内容を扱うことが望まれる。つまり、教養としての共通部分を維持しつつ、教員養成のための情報リテラシー教育を考える必要がある。

教員養成学部生のための情報リテラシー教育を検討した研究はいくつかある。文献(1)は、学生のパソコン利用の実態を調査している。また、文献(2)では、教員養成学部生を対象に高等学校における学習状況を調査している。しかし、これらは教員養成学部生に必要な教育内容までは検討していない。

本報告では、情報リテラシー教育の実践を通して、教員養成学部生に必要な教育内容を検討することを目的とする。特に、小中高等学校教員希望者を対象とする。

2. 情報リテラシー授業内容

2.1 授業シラバス

本報告は、筆者が所属する椋山女学園大学(以下、本学)教育学部における情報リテラシー科目での教育内容を扱う。本学においては、情報リテラシー科目「コンピュータと情報」が全学共通で1年生を対象に必修とされている。この科目では、全学的にWord、情報セキュリティ、倫理とネットワーク等に関するスキルとレベルのガイドラインが定められている。ただし、扱う題材や詳細な内容までは決められていない。また、1～2回は学部独自の内容を盛り込まれる余地を残している。なお、この科目の運用は学部ごとに行われている。

教育学部における「コンピュータと情報」の2012年度シラバス概要を表1に示す。この中で15週目が

教育学部独自に決めた教員養成のための内容である。なお、内容は毎年少しずつ見直されている。

2.2 教員養成のための内容

前節で述べたシラバスの15週目を含めて、教員養成のための内容をいくつか扱っている。該当の内容を、表1のシラバスにおいて実施している週と扱い始めた年度を併記して表2に示す。また、各内容の詳細を以下に示す。

(1) 著作権

著作権法において、第35条「学校における複製など」として自由に使える場合を示している。これを中心に著作権を指導する。

(2) Word で数式

Wordには数式の入力・編集機能が組み込まれている。算数・数学のための数式入力の仕方を指導する。

(3) Word 文書にパスワード設定

情報セキュリティを高めるために、Word文書にパスワードを設定する方法を指導する。

(4) Word で DTP

教員は学級新聞などでDTPを扱うことがある。しかし、DTP専用ソフトウェアは学校にはない。そこで、WordでのDTP機能の使い方を指導する。

(5) PowerPoint で発表操作

教員はPowerPointを使って授業を行うことがある。そこで、スライドショー等でのスムーズな操作方法を指導する。

(6) 学習支援ソフト

小学校では学習支援ソフトを導入していることが多い。そこで、学習支援ソフトの体験的な操作を指導する。

3. アンケート

2.2節で示した六つの内容に関するアンケートを2012年度の受講学生に初回の授業で行った。対象は1年生171名で、有効回答者は155名である。表3に示す、六つの内容に対応させた6項目の質問に対

して、それぞれ、「はい」、「いいえ」、「どちらともいえない」、「質問の意味が分からない」の4択で回答を求めた。その中で、「いいえ」を選んだ者のみ、更に「できるようになりたいか」で、「はい」、「いいえ」を回答してもらった。

一方、「コンピュータと情報」に対する授業アンケートを毎年行っている。対象は、各々1～2クラスの受講者で人数は40～90名程度である。アンケートの中で、「総合的に満足しているか」を「4.その通り」から「1.そうではない」までの4件法で聞いている。

4. 結果と考察

授業内容に関するアンケートでは、初回の授業時に行ったため全体的に「いいえ」と回答した者が多かった。そこで、「いいえ」と回答した者が、更に、「できるようになりたいか」に対して、「はい」または「いいえ」と回答した人数を比較することにした。なお、調査時点の進路希望で小中高等学校教員を希望する者（以下、教員希望者）と保育士・幼稚園教員・その他を希望する者（以下、その他希望者）とに分けて集計した。アンケート項目ごとの集計結果を表4に示す。なお、教員希望者は75名、その他希望者は80名いた。

どの項目も9割以上の者が「はい」と答えており、特に教員希望者は、全員が全項目「はい」であった。一方、その他希望者は、ほとんどの項目で何人かが「いいえ」と答えた。その割合が多かった順に、「2.Wordで数式」、「1.著作権」、「3.Word文書にパスワード設定」である。これらは、教員養成のために必要な情報リテラシーの内容だと受講者が判断したといえる。

次に、授業アンケートでの総合満足度の結果を図1に示す。年度別で、回答ごとの人数を100%積み上げ横棒グラフで示している。回答は、教員希望者とその希望者との区別をしていない。なお、Wordをバージョン2007で授業を行った2008～2011年度の結果を記載している。

アンケート結果の平均値は、2008年度から順に、3.33、3.36、3.44、3.65と良くなっている。これは、教員養成学部生にとって、表2に示した内容を扱うようにしたことが大きな要因だと考えられる。

5. まとめ

教員養成学部生向けの情報リテラシー教育を検討した。その結果、著作権、Wordでのパスワード設定や数式などの教員養成のための内容を取り上げることによって、受講者の満足度を高くする情報リテラシー教育となることが分かった。

参考文献

- (1) 成田雅博：“教員養成課程における「情報機器の操作」受講学生のコンピュータ利用及び統計的活動の学習経験に関する調査”，山梨大学総合情報処理センター研究報告, vol. 10, pp. 1-14 (2006)

- (2) 今井亜湖ほか：“教員養成学部の情報教育カリキュラムを改善するための調査”，教育システム情報学会第34回全国大会講演論文集, pp. 116-117 (2009)

表1 「コンピュータと情報」シラバス概要

週	内容
1.	パソコン(Windows)の基本操作
2.	電子メール, 情報セキュリティと著作権
3.	文章の入力
4.～12.	Word の操作方法
13.～14.	PowerPoint の操作方法
15.	小学校向け学習支援ソフトウェア

表2 教員養成のための内容

No.	内容	週	開始年度
1.	著作権	2.	2011
2.	Word で数式	3.	2010
3.	Word 文書にパスワード設定	5.	2012
4.	Word で DTP	11.	2009
5.	PowerPoint で発表操作	13.	2011
6.	学習支援ソフト	15.	2010

表3 授業内容アンケート項目

No.	内容
1.	著作権法で、学校においては特別に使用を認められている場合があることを知っていますか。
2.	Word を使って $\frac{1}{2}x^2 - \sqrt{5}x + \frac{4}{3}$ のような数式を作成できますか。
3.	Word で作成した文書にパスワードを設定して保存できますか。
4.	Word で DTP 的な使い方(新聞・書籍のように文章や写真, 図などを自由なレイアウトで配置することをDTPという)ができますか。
5.	PowerPoint での発表操作(スライドショーの実行, 前のスライドに戻る等)ができますか。
6.	小学校で良く使われている学習支援ソフト(例えば, ジャストスマイル)を使ったことがありますか。

表4 「できるようになりたいか」に対する回答者数

アンケート項目No.		1.	2.	3.	4.	5.	6.
教員希望者	はい	39	70	66	55	29	46
	いいえ	0	0	0	0	0	0
その他希望者	はい	35	65	66	58	23	47
	いいえ	3	10	3	1	1	0

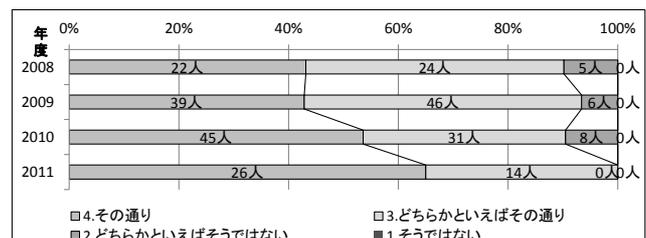


図1 授業アンケートでの総合満足度